

段ボールコンポストに挑戦

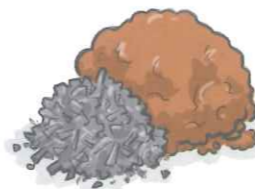
イラスト：藤田倫央

段ボールコンポストとは、段ボール箱を利用した手軽な生ごみ処理容器のことです。微生物の力で生ごみを分解し、堆肥(コンポスト)を作ります。庭先やベランダでも手軽に取り組みますよ。

準備編

身近な材料を使って簡単に始められます。

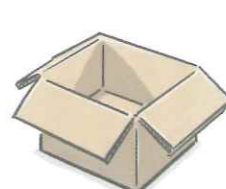
材料



コンポスト基材
(ピートモス、もみ殻くん炭)
※割合は3:2が目安



二重底用の
段ボール板



段ボール箱
※ミカン箱程度の大きさ。厚手で強度があり防水加工でないもの



虫よけキャップ



スコップ

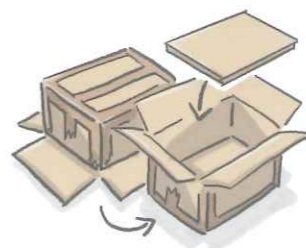


風通しの良い
網目状の台

作り方

1 段ボール箱を組み立てる

段ボールを箱状に組み立て、底が抜けるのを避けるために二重底にします。虫の侵入を防ぐため、隙間や穴を目張りします。



2 コンポスト基材を入れる

ピートモス、もみ殻くん炭を入れ、水を加えてよく混ぜます。混ぜたものをぎゅっと握ると、まとまる程度が良いでしょう。



3 設置場所を選ぶ

通気性が悪いと段ボール箱が湿って傷むことがあるので、網目状の台に載せて壁からも5cm程度離します。虫よけキャップをかぶせます。



4 下準備

段ボールコンポスト内を1週間~10日間ほど毎日かき混ぜ、微生物を育てます。以上で準備完了です。



花壇で土づくり

堆肥は家庭菜園や花壇の土づくりに活用しましょう。食品ロスの削減にもつながります。



微生物が大活躍

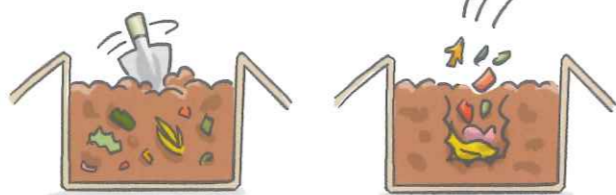


段ボールコンポストは、微生物の力で生ごみを発酵させて堆肥を作ります。微生物にとって最適な環境に保つことが大切です。

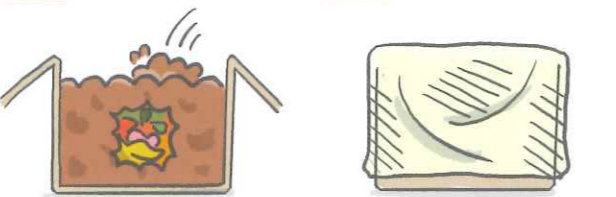
活用編

微生物の力で生ごみを分解。良質な堆肥の出来上がり。

生ごみを投入する



- 1 前日に入れた生ごみをよくかき混ぜる。
- 2 中心部に穴を掘って、新たに生ごみを入れる。



- 3 上から基材をかぶせておく。
- 4 虫よけキャップをかぶせる。

熟成

熟成は、最後に投入した生ごみが分解され、堆肥として使用できるようになるための準備工程です。段ボールコンポストへ生ごみを投入する期間が3カ月から6カ月程度経過した頃、基材がべたついて、分解するまでにまだ時間がかかる、と感じたときに行います。生ごみの投入を終了した時点では、まだ堆肥ではありません。未熟な堆肥を土に入ると土の中で熟成が始まり、植物の根を傷めることがあるので注意しましょう。

熟成の手順

1週間に1回程度1、2Lの水分を加え、基材全体をよく混ぜて分解を促進させます。熟成期間は、夏季は2週間~1カ月、冬季は1、2カ月程度で、生ごみの形がなくなり、水分を加えても温度が上昇しなくなれば熟成完了です。

堆肥化スケジュール(目安)

	1カ月目	2カ月目	3カ月目	4カ月目	5カ月目
1箱目	微生物を育てる(約1週間~10日間)	生ごみを投入する(約3カ月~)		熟成させる	堆肥完成!
2箱目			微生物を育てる(約1週間~10日間)	生ごみを投入する(約3カ月~)	段ボールは3箱目に利用

ここがポイント!

1 投入量と期間

投入量は1日につき500~800g程度、投入期間は3~6カ月を目安にしましょう。生ごみはなるべく細かくしてから入れましょう。

2 生ごみの種類

- 廃油、魚のあら、炭水化物は微生物の分解を促進します。
- 乾燥したタマネギ、トウモロコシ、タケノコの皮などは、分解されるまでに時間がかかります。
- 貝殻は分解されないため投入しないこと。
- 落ち葉・木の枝などは投入しないこと。
- 細かい魚の骨、砕いた卵の殻は投入しても問題ありません。
- しばらくの間投入を停止していた場合は、水1L程度を加え、よくかき混ぜてから再開すると良いでしょう。

3 温度管理

微生物が生ごみを順調に分解していると、段ボールコンポストの中が20度から40度まで上がります。微生物の働きを助けるため、寒い季節は日なたなどの暖かい場所に置きましょう。

4 置き場所

室内と屋外どちらもOK。できるだけ日当たりと風通しの良い場所に置きましょう。雨が当たると段ボール箱が傷むので、軒下・ベランダなど雨が当たらない場所を選ぶ必要があります。雨よけとしてビニールなどをかぶせることは、空気の供給や水分の調整に支障が出るため避けましょう。

5 臭い対策

- 投入する前、生ごみを適度に水切りしましょう。
- かき混ぜるときはスコップを縦に差し込み、しっかりと空気を送り込みます。

6 虫を寄せ付けない

- 投入前の台所の生ごみは密封保管して、虫に卵を産ませないようにしましょう。
- 段ボールコンポストに虫よけキャップをかぶせて、虫に卵を産ませないようにしましょう。

Q&A

Q 臭いが強いときはどうしたら良いですか。

A 動物性タンパク質を大量に投入すると臭いが出る場合があります。生ごみの投入を中止すれば臭いは収まります。

Q 虫が発生したときの対処法を教えてください。

A 段ボールコンポスト内の温度を30度以上に保てば虫の発生を抑えることができます。虫よけキャップは必須です。

Q 虫が多く発生したら中止しなくてはいいませんか。

A 基材を黒いビニール袋に入れ、口をしっかり閉めて密封状態で太陽光に当て、袋の中の温度を上げると虫は死滅します。虫の死骸もやがて堆肥となるので問題ありません。

Q 表面に白カビが発生しました。中止しなくてはいいませんか。

A 白カビは、生ごみの分解が進んでいる証拠。水分や空気が不足しないようにすれば問題ありません。

Q 寒くなったら生ごみが発酵しにくくなりました。

A 段ボールコンポスト内の温度が10度以下になると、生ごみの分解はなかなか進みません。特に冬場は、油または米ぬかを少し入れて、温度を上げてみてください。